

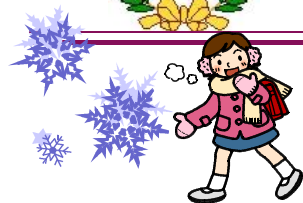


大和町立吉岡小学校

校長室の窓から

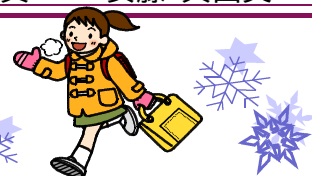
令和7年11月25日(火)

文責： 安藤 真由美



しょうせつ

小雪～雪のたよりが・・・



二十四節気では「小雪(しょうせつ)」を迎え、雪が降り始め山が白くなる時期となりました。学校からも、遠く船形山が白く輝いて見えます。手袋やマフラーなどの防寒具を身に付けて登校する子供たちの姿も多くなってきました。

校舎内に差し込む日差し of 角度にも季節の変化を感じながら、まぶしさに目を細め外を見渡すと、校庭一面掘り直され、碎石が敷き詰められ、着々と暗渠排水の工事が進められています。

工事用に搬入されていた土砂の山も、日に日に崩され、敷き詰められて、だいぶ低くなってきました。

毎日、工事車両が校庭を行ったり来たりしています。

天気がよい日、使用割り当てに当たっている学年の子供たちは、お借りしている中学校の校庭へと足取りも軽く遊びに向かいます。囲まれているフェンスの向こうには、あまり関心がないようにも見えます。しかし、校舎内の階段の踊り場からは、校庭をよく見渡せるので、時々子供たちの声が聞こえてきます。何より子供たちが気になっているのは、新しい遊具のようです。

赤や青、色とりどりの支柱が設置され、日々変化しています。

「あ、あれ！ブランコだね」

「あそこに雲梯(うんてい)がある！」

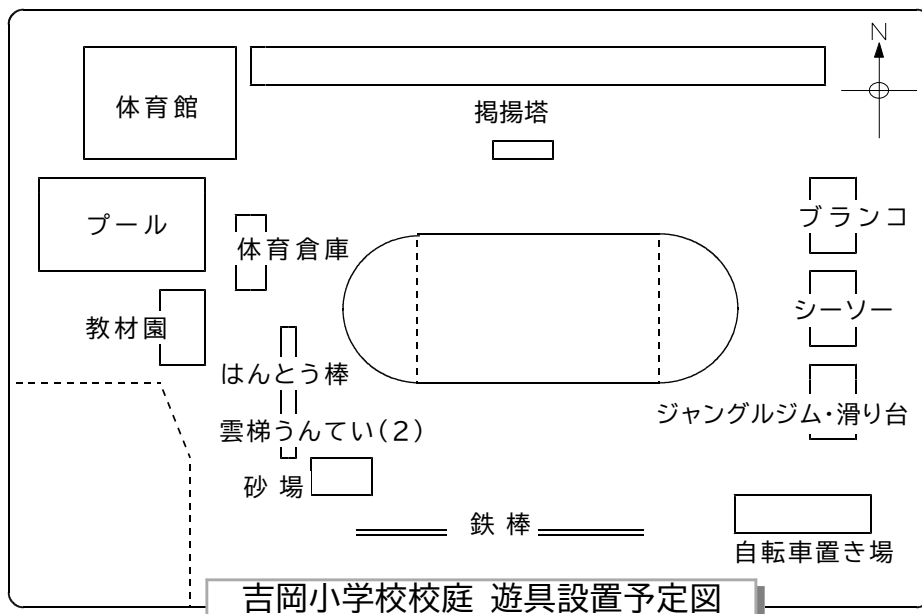
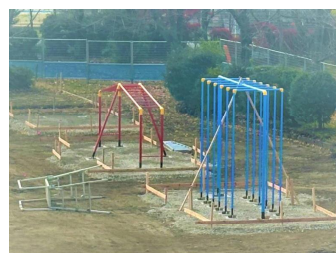
「見て見て！あっちに鉄棒！」

「小さい山はあるのかな・・・」

校舎との境にはまだフェンスが続いていますが、その向こうに広がるのは、完成が楽しみなみんなの「校庭」。そして、それを眺めながら高まっているのは、「早く遊びたい！」という、子供たちの大きな夢と希望と期待感です。

その中で気付かれにくいのは、校舎前の「掲揚塔」です。あまりにも近くにありすぎて目の中に収まりにくいからかもしれません。校旗を掲げた掲揚塔と校舎もさぞすてきなことでしょう。

時雨や冷たい風の中でも、工事は進められています。感謝をしながら、完成を楽しみに・・・。



工事車両に注意し、事故なくけがなく、安全第一に・・・。



～ 校舎前の掲揚塔 ～